

令和4年10月27日

泉南市議会議長
田畑 仁 様

厚生文教常任委員会
委員長 澁谷 昌子

厚生文教常任委員会 行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

1. 【視察日】 令和4年10月25日(火)～令和4年10月26日(水)

2. 【視察委員】

| | | | |
|-----|-------|------|------------|
| 委員長 | 澁谷 昌子 | 副委員長 | 井上 実 |
| 委員 | 岡田 好子 | 委員 | 谷藤 麻由奈 |
| 委員 | 谷 展和 | 委員 | 楠 成明 |
| 委員 | 河部 優 | 委員 | 堀口 和弘(副議長) |

3. 【視察先】

①三重県津市 ②三重県四日市市

4. 【調査事項】

- ①「津市立みさとの丘学園」小中一貫教育について
- ②廃校跡地の活用について(子育て支援センター橋北交流会館の現地視察)

5. 【視察目的】

①三重県津市 —魅力ある教育環境づくり—

本市における小中学校の多くは、耐震基準は満たしているものの老朽化し建て替えの時期を迎えている。さらに、人口減少や少子化も進み単学級の学校が増えている。そのような現状を踏まえ、子どもたちの安全・安心で時代にあった教育環境の整備を最優先に考え、現在、小中学校の再編計画を進めている。

当委員会は、先進的に小中学校を再編し小中一貫教育(義務教育学校)を実現した津市立みさとの丘学園について視察を実施する。

②三重県四日市市 —廃校跡地を活用し地域コミュニティの場—

学校は、地域にとって歴史や思い出が詰まった宝物。そして、防災上の拠点である命を守る重要な施設である。小中学校再編後、廃校となった跡地をいかに活用できるのか。幅広い世代が集う交流の場として生まれ変わった四日市市「橋北交流会館」の現地視察を実施する。

6. 【概要】

1. 三重県津市

平成29年4月、1年生から9年生までが共に学ぶ義務教育学校「みさとの丘学園」が開校。校舎は、昔ながらの木のぬくもりとモダンなコンクリートが融合した他に類を見ない設計により建築されている、施設一体型の「小中一貫校」である。

■ 学校概要

面積 敷地 31,582 m²(新設のプール敷地を含む)
建物 5,190 m²(鉄筋コンクリート造※一部木造)

児童生徒数 前期課程(小学校)159人
後期課程(中学校)97人 合計 256人 (R4.5.1現在)

総事業費 8億9,523万円
※学校施設環境改善交付金及び合併特例事業債を活用

■ 義務教育学校開校までの経緯

平成26年度～「小中一貫校構想推進会議」が発足

- ①施設整備計画 ②教育課程の編成 ③統合後の人権教育 ④学習環境の整備
⑤通学路の整備 ⑥スクールバス運行ルート などについて、計10回会議を開催。

※アンケートも実施した。

※「小中一貫校構想推進会議」の構成メンバーは、各地区自治会代表、保幼少中の保護者、小中学校長、保幼園長。

平成28年度～「みさとの丘学園」開校準備委員会が発足

- ①みさとの丘学園の学校運営について ②今後のスケジュール(住民説明会等)
みさとの丘学園の開校に向けて、5回の会議を開催。

平成29年4月6日「みさとの丘学園」が開校。

■ 特徴

① 学年段階を3つに区切る(4-2-3制を採用)

前期課程(小学校)

4年間 ホップステージ (1年～4年)

2年間 ステップステージ(5年～6年)

後期課程(中学校)

3年間 ジャンプステージ(7年～9年)

※4-2-3制を採用し、あえて小中学校の区別を残した。

その理由は…

中1ギャップの心配が少ない。

ひとつの校舎で9学年が一緒に生活することで、小学生は中学生が生活している様子を間近いで感じられる。

学校生活がマンネリ化しない。

中学生(7年生)になると、制服の着用や部活動の本格開始などにより刺激と変化を与える。

② 日常的な異年齢交流が可能

前期課程の児童は、お昼休みに後期課程の児童に勉強を教わったり、相談にのってもらうことで自己肯定感が高まる。また、後期課程の生徒は、前期課程の児童と過ごすことで自己有用感(自分の存在は人の役に立っているという気持ち)が高まる。

③ 職員室はひとつ(職員の相互乗り入れが可能)

小学校の先生と中学校の先生が日々すぐに情報交換ができ、教員の連携が促進された。児童生徒に対して、今までの倍の教員で支援ができるようになった。

④ 不登校児童生徒が少ない

視察実施日現在では、不登校児童生徒は1名とのことであった。教員の相互乗り入れの効果により、悩みを抱える子ども達へきめ細やかな対応が可能となった。

■ 今後の課題

みさとの丘学園が開校し、6年目となる。平成29年開校当時の事情や様子をよく知る教育委員会の職員や校長、教職員は順に人事異動となっていく。これから、開校当時の理念や想いをどのように引き継いでいくかが今後の課題であるとのことであった。



2. 三重県四日市市

学校統合により遊休化している小学校を活用し、認定こども園や児童館などの子育て支援機能をもつ複合施設を整備。完成したのが橋北交流会館である。

■ 施設概要(利活用内容)

校舎 延床面積 約 5,704 m²

1・2 階 認定こども園(橋北こども園)、地域活動室

3 階 企業 OB 人材センター、貸館

4 階 こども子育て交流プラザ

■ 橋北交流会館ができるまでの経緯

東橋北小学校(平成4年築)及び西橋北小学校(昭和34年築)について

当時、教育委員会は、施設が新しくグラウンドが広い東橋北小学校への統合を提案していたが、地域住民(橋北地区連合自治会)から西橋北小学校への統合を希望する陳情書提出され、その結果、生徒数が多かった西橋北小学校への統合が決定され、平成25年に橋北小学校が開校された。その後、旧東橋北小学校の跡地活用について、地域住民・教育総務課・政策推進課が協議を重ね、平成29年に橋北交流会館がオープンした。

(実際に見学をして感じたこと)

○1・2 階 橋北こども園

四日市市は地域の事情により、転勤による転出入が非常に多く、身近に子育てに関する悩みを相談できる環境が少ないとのことであった。園長先生のお話では、一時預かりの利用者や育児相談に来られる保護者も多いとのこと。また、学校施設を活用したおかげで、廊下が非常に広く室内に遊具を設置できた。園児は天候に左右されることなく、遊具で遊びながら体を動かすことができる。

○4 階 こども子育て交流プラザ

交流室では、平日休日ともに、乳幼児を連れたパパやママが多く利用されている。おもちゃや絵本、三輪車などもあり、自由に遊べる環境となっている。また、お帰りの時間には、ピアノ演奏が奏でられ、子どもたちが自然に帰る時間を感じられる幼稚園や保育所のような工夫がされていた。工作室には、おりがみやペットボトルのキャップなど工作用材料が準備されており、自由に作品作りができる環境が整っており、完成した作品もたくさん飾れていた。さらに、図書室には書籍が配架されており、学校帰りの子どもたちにとって、大切な居場所となっていると感じられた。



7.【所感】

津市での視察では、教育委員会・学校現場の教職員・地域の方々がともに連携し、みんなで子どもたちの健やかな成長を見守っているのだと感じられた。また、四日市市では、廃校となった跡地を「誰もが気軽に訪れる交流の場」へと生まれ変わらせた、大変参考になる事例であった。